

## 商品市況展望

平成 25 年 8 月 11 日記

相場の基本のお勉強の最終回だ。今回はストップロスの注文方法の解説だ。

現在の商品先物市場の注文方法はすべて英語になり、成行とか指値とか、逆差しとか言わないわけだ。成行=マーケット・オーダー (MO) であり、指値=リミット・オーダー (LO)、逆指=ストップ・オーダー (SO) という名称になる。

例えば金相場が 4,000 円している時、すぐには買いたい場合は MO 注文だ。板を見れば幾らで入るか大体わかるはずだが、気配が 4,000 円なら 4,001 円で買えると思っていれば、ほぼ正解。逆に 4,000 円の時に、すぐ売りたいなら MO の売り注文だ。3,999 円で売れるだろう。

相場が 4,000 円の時に、3,950 円なら買いたいと思うのなら、3,950 円の LO 注文だ。そこで成立した買い玉を 4,050 円になったら売りたいと考えているのなら、すぐにその注文を出しておけば良い。最近の相場は 100 円どころか、下手すれば 200 円、300 円と一晩で動くケースもあるわけで、とにかく今は入りそうもないと思っても、出しておかなきゃ結果は判らない。

さて SO 注文だ。SO 注文は、SO の MO とか、SO の LO とかという条件で出す。4,000 円で買いを入れた時、3,950 円以下になったら損切りしようと思うのなら、**3,950 円↓の SO で MO と出しておけば必ず入る。**

ただし板が薄い場合は、3,950 円↓の SO-MO だと、もしかしたら 3,920 円まで値が飛んで成立するかもしれない。50 円の損切りのつもりが、80 円の損切りになってしまう。(実際は、金の場合ならまずそんな事は無いが)

それを避けたいなら 3,950 円↓の SO-LO 3,940 円とすれば、3,940 円までで成立する。そのかわり、成立しないで下に放れていってしまう場合もある。どこで LO を打つかの判断は難しい。

ストップロスを作成させるには、SO-MO しかない。SO 注文は新規注文で使う事もできるため、新規注文なら入らなくても手仕舞い注文よりは困らないので、SO-LO は有効な注文方法であろう。

株式市場の場合なら、この成行=MO、指値=LO、逆指=SO の 3 つだろうが、商品先物の場合はそのほかに IFD、OCO といった注文もある。

IFD は 3,950 円買い LO の注文が入ったら、同時に 4,050 円売り LO の注文も出しておけるものであり、OCO は 3,950 円の買い玉を 3,900 円↓仕切り SO 注文 (損切り) と、4,000 円仕切り LO 注文を同時にしておき、先に成立した方を優先するもの。また IFD/OCO という注文方法もある。

こういう注文を出しておけば、夜中もずっと起きていなくても、安心して眠れるというものだ。もっとも朝になったら、「あれれ！建て玉が全部落ちてるぞ！」という事もあるのだが、5%の損か、10%の利益で終了しているのなら大正解。

## 〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

### 今週の金の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
8月5日	¥4,180	50	¥4,170	48
8月6日	¥4,093	-87	¥4,091	-79
8月7日	¥4,008	-85	¥4,006	-85
8月8日	¥4,014	6	¥4,004	-2
8月9日	¥4,071	57	¥4,071	67

金相場は、先週号においては『4,329円で戻り天井を打っているとの相場観に変化無し。戻り売り継続の相場であり、少なくとも2番底を取りに行く相場であろうと判断している』とコメントした。

今週の相場展開は、3,975円(8/8)まで下落。4,000円の大台を再び割り込んだが、引けにかけては戻しており、週末は4,100円台まで一時戻した。

戻り天井の4,329円(7/25)を記録した後は、チャートは明らかに下向きのトレンドに変化しており、この4,000円割れで底を打ったと言える状況ではない。しかし前回安値の3,750円からも600円ほど戻したわけで、やはり4,000円割れは買い場であろうとの思惑も強いのだろう。だから週末にかけても戻したわけだ。

チャートを一目見てわかるとおおり…中略…

今回こうして相場が下げて来ている原因は、根本的にはやはり金融資本が金へ資金が流れるのを嫌い、株式市場に資金誘導をしているという、今までのパターンに変化が生じていないためだろう。ファンドのポジションやETF残高の推移などを見ても、…中略…

先週号でもコメントしたが、…中略…

ただしその戻りが、現在は130円ほど出たわけだが、これで済むのか、200円～300円ほどもあるのかが問題で、ストップロスにどう引っかからないようにするかが相場の難しいところ。

なお一代の動きは以下のとおおり。

### 東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥3,765	6月28日	¥4,071
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥3,761	6月28日	¥4,071
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥3,745	6月28日	¥4,071
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥3,751	6月28日	¥4,075
2014年4月	¥4,585	4月25日	¥4,760	5月10日	¥3,749	6月28日	¥4,073
2014年6月	¥4,031	6月26日	¥4,329	7月25日	¥3,750	6月28日	¥4,071

○NY 金日足

…削除済み…

8/9 の NY 市場では、前日比 2.3 ドル高の 1312.2 ドルでの終了。為替は 96.17 円と円高であるため、国内換算では 1 円安である。

チャートでは、戻り天井を打った 1348.7 ドル (7/23) から一時は 1300 ドル割れの 1280 ドル台まで下落したものの、その後は戻して 1,310 ドル台にいるという事である。

このまま上昇に転じて、この 1348.7 ドルをクリアするようなら、相場は押し目買いへと転換であろう。しかし 1280 ドルを割り込むような状況になれば、6/28 の安値 1179.4 ドルを目指す展開になるものと考えている。

今は後者の見方を採っている当方であるが、相場は決めつけすぎると反対に行った場合に対処が遅くなる。予断を廃して来週は相場に臨みたい。ただし再度言うが、当方は戻り売りの相場だと考えている。

なお CFTC 発表の 8/6 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 8/9 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、第一目標の 4,000 円割れは実現。ここから戻りを入れて、次はもう一度 3,750 円辺りをトライするものと考えている。戻り売り方針である。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
8月5日	¥4,602	29	¥4,623	31
8月6日	¥4,587	15	¥4,603	-20
8月7日	¥4,471	-116	¥4,479	-124
8月8日	¥4,502	31	¥4,508	29
8月9日	¥4,634	132	¥4,648	140

プラチナ相場は、先週号においては『4,743円で戻り天井を確認した相場であるとの判断であるが、金との価格差は更に広がっており、金よりも確りした傾向の相場は続くのだろう。戻り売り方針だが、その点には注意が必要か』とコメントした。

今週の相場展開は、金の下落とともに軟化したプラチナは4,447円(8/7)まで下落。しかしそこからは大きく切り返し、4,684円の高値まで記録。急落分は“往って来い”の状況となった。

4,743円はまだ戻り天井だと考えているが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,634
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,633
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,122	6月27日	¥4,639
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,125	6月27日	¥4,643
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	¥4,109	6月27日	¥4,644
2014年6月	¥4,284	6月26日	¥4,743	7月25日	¥4,125	6月27日	¥4,648

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,648円(プラチナ) - 4,071円(金) = 577円。今週はまた大きくサヤが拡大したわけで、チャート通りの流れである。

先週号でも「依然としてプラチナ買い・金売りの順ザヤ幅の拡大を示唆するもの」としたが、600円辺りはさすがにピークになっても不思議ではなさそう。ここからは、一時的にはプラチナ売り・金買いの仕掛け場を探すべきかもしれない。

結論として当方の相場観は、4,743円は戻り天井との見方はまだ崩していないが、抜けたら考え方を転換するしかあるまい。また金とのサヤも、ぼちぼち買われ過ぎであると考えている。

## 〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	9月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
8月5日	¥24,540	-960	¥24,960	-370
8月6日	¥24,500	-40	¥24,600	-360
8月7日	¥24,010	-490	¥24,510	-90
8月8日	¥24,500	490	¥24,330	-180
8月9日	¥24,500	0	¥24,440	110

まずはコーンから…

先週号においては『戻るとすればシカゴ市場でのファンドのショートカバーのみ。その戻りは絶好の売り場になるだろう。戻らぬ場合は、下に下にの大名行列だろうし、ともかく買う相場ではないだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には**24,120円までの下落**となり、今週も一代安値の更新。そこからは若干戻しての終了である。

年初来安値の更新中の相場であり、7/10の27,800→24,120円(8/9)まででも3,680円の下落中。最高値の28,970円(6/3)→24,120円(8/9)までだと4,850円の下落中である。

コーンの証拠金は1枚=55,000円。倍率は50倍ゆえ、3,000円の動きは15万円の動き。売っていれば、この7月からの下げでも証拠金の3倍の利益が出るわけで、妙味は十分ある。穀物相場も十分面白い。

さて週明けには、**米農務省報告**がある。…中略…

そんな中で、こうして安値追いするのは当然の結果であり、戻りがあるとすれば売り方ファンドの買い戻し以外には、材料は無いものと思われる。幾ら戻ってもシカゴの5ドル台は無いだろうし、**国内の25,000円台半ばは限界**ではあるまいか。

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥33,570	6月3日	<b>¥23,520</b>	8月7日	¥24,500
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥28,910	5月30日	<b>¥23,800</b>	8月9日	¥24,100
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,600	6月3日	<b>¥24,050</b>	8月9日	¥24,330
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥28,750	6月3日	<b>¥24,260</b>	8月9日	¥24,470
2014年5月	¥26,550	4月17日	¥28,970	6月3日	<b>¥24,180</b>	8月9日	¥24,490
2014年7月	¥26,600	6月17日	¥28,410	6月21日	<b>¥24,120</b>	8月9日	¥24,440

今週も、一代安値の更新となっている。

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 8/9 のシカゴ市場は、9 月限で前日比 7.75 セント安の 465.75 セント。12 月限では 6.50 セント安の 453.25 セント。

800 セントまで駆け上がった 7 月限が納会し、9 月限は 7 月限にサヤ寄せするよりも、新穀の 12 月限にサヤ寄せするように 460 セント台まで下落。また米農務省報告の内容次第では、新穀の 12 月限が 4 ドル割れに向かう可能性も否定できないだろう。

CFTC 発表の 8/6 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、戻り売り継続の相場であろう。怖いのはファンド買い戻しによる急反騰だが、最大で 25,000 円台半ばまでを見ておけば十分だろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
8月5日	¥49,820	-180	¥51,260	-620
8月6日	¥49,380	-440	¥51,000	-260
8月7日	¥49,240	-140	¥49,540	-1460
8月8日	¥49,500	260	¥49,350	-190
8月9日	¥43,500	-6000	¥49,860	510

続いて一般大豆です…

先週号においては『遅かれ早かれ年初来安値を更新して行くだらう。戻り売り一貫の相場であり、ファンドの総投げ確認まで売りであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、大きく下落した相場が **49,130円 (8/8)** まで記録であり、5万円の大台を大きく割り込んだ。

これで **56,340円 (7/10) →49,130円 (8/8)** までの下落幅は **7,210円** 幅となり、**12%以上**の下落率となった。次の目標値は、年初来の安値の **48,450円 (1/9)** という事になるだろう。

週明けの12日には米農務省報告があるが、…中略…

なお大豆の1枚の証拠金は僅か25,000円。1枚=138,000円の金と比べれば、5分の1以下である。倍率は10倍なので、5,000円動いて5万円である。それでも証拠金の倍である。

一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥64,900	5月16日	<b>¥43,500</b>	8月9日	¥43,500
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥68,750	7月10日	¥46,920	10月16日	¥60,450
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥58,000	7月12日	¥48,450	1月9日	¥50,900
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥56,000	7月17日	<b>¥48,960</b>	8月8日	¥50,200
2014年4月	¥50,910	4月17日	¥56,800	7月10日	¥49,850	5月2日	¥51,520
2014年6月	¥51,760	6月17日	¥56,340	7月10日	<b>¥49,130</b>	8月8日	¥49,860

当限の8月はまた暴落して、高値からはすでに2万円は下げているわけだ。それに比べて10月限は下げないが、それは一応需給逼迫の旧穀の最終限月だからである。

もちろん受け手の買い方が手仕舞いすれば同様に暴落するのだけれど、それを嫌って受けに出れば10月限だけは下がるんという場合もあり得る。どうなるかは判らぬ。まあ、素人が手を出さず限月ではないだろうが。

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末8/9のシカゴ市場は、8月限で前日比15.00セント安の1340.75セント。11月限では2.00セント安の1182.25セント。

16ドル台まで上昇していた7月限が納会し、14ドル台で表示された8月限は、一度は15ドル

台まで上がったものの、また急落して 1313.75 セント (8/7) まで下落。

だが新穀は 13 ドル台どころか、12 ドル台でもなく、11 ドル台なのである。昨年はホット&ドライで 30 億 Bu しか取れなかったが、今年は 12 日の発表次第ではあるが 34 億 Bu 程度は取れそうな豊作なのだから、新穀が下がるのは当たり前である。

なお CFTC 発表の 8/6 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、売り継続の相場であろう。年初来安値の更新は必至だろうし、ファンドの投げが出るまでは戻れないか。



## [ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

### 今週のゴムの値動き

	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
8月5日	245.5	-4.4	245.8	-2.3
8月6日	247.3	1.8	249.9	4.1
8月7日	245.5	-1.8	246.4	-3.5
8月8日	253.5	8.0	256.2	9.8
8月9日	256.5	3.0	261.3	5.1

先週号においては『ストップロスを252.0円、258.9円、262.0円に置きながらの戻り売り方針。238.7円を割り込めば、売り方の勝ちだと考えている』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には高値で**264.0円(8/9)**まで記録。あっという間に次々とストップロスをヒットさせながらの上昇であり、相場は様変わりの様相。

「238.7円を割り込めば、売り方の勝ちだと考えている」と先週号でコメントしたが、相場はあっという間に急騰。売り方は負けであり、売りで負けなら今度は買いに転じるしかあるまい。

現状では買いトレンドに戻ったと判断するしかなく、225.0円は大底。下値支持線は238.7円であり、250円台前半までの押しは買い場という判断をせざるを得ないか。

上値目標は262.0円→238.7円までの23.3円幅の倍返しなら、ズバリ285.3円。280円台を目標とし、押し目買いへの転換である。

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	222.6	6月25日	256.5
2013年9月	279.5	3月26日	297.7	5月13日	221.9	6月25日	258.4
2013年10月	253.7	4月24日	299.0	5月13日	222.3	6月25日	258.4
2013年11月	267.7	5月28日	274.8	5月29日	223.9	6月25日	258.3
2013年12月	231.0	6月25日	<b>262.8</b>	<b>8月9日</b>	225.5	6月25日	259.7
2014年1月	257.0	7月26日	<b>264.0</b>	<b>8月9日</b>	238.7	7月31日	261.3

先物2本が一代高値の更新中である。

当先のサヤは、8月限256.5円～1月限261.3円と**4.8円**の逆ザヤ。先週の“おかめザヤ”は解消したが、価格上昇での解消である。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、7/20現在で1,092トン減の10,192トン。8旬連続の減少である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、8日・9日の急騰で19,000元台へ上昇。もみ合い上放れの情勢である。この上海市場の急騰が、東京市場の急騰の要因となった事は確実だ。

さて中国経済については、シャドバンキング問題や不動産バブルの崩壊などで先行き悲観的な見方が多いわけだが、上海株式市場は6月の暴落を経た後、7月・8月と徐々に回復している。これがゴム市場へも影響を与えたのだろう。

いずれは更なる崩壊になってもおかしくない中国経済だろうが、やはりそこは相場だけに、皆がダメだと思って売り叩くと、逆にあごを刺されるという反騰もあるという事か。次の中国関連のバッドニュースが入るまでは、ゴム相場も崩れないのかもしれない。

結論として当方の相場観は、週末までの急騰で戻り高値を更新した相場であり、相場観は180度転換して押し目買い方針へ。238.7円をストップロスに下げた場面は買い、280円台回復を目標とする。

## 〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週号においては『NY 原油は W トップの完成を待っての売りであろう。東京原油は三尊天井の形成を確認して、売り方針が良いだろう。当分の間、値幅は大きいと想定される』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は先週末の高値 108.82 ドルから反落に転じ、8 日には 102 ドル台まで下落。W トップ完成のようなチャートとなったが、週末は切り返して 2.57 ドル高の 105.97 ドルでの終了である。

8 日には 102.67 ドル (7/30) の安値を割り込み、チャートは W トップを形成。…中略…

上昇要因は中東情勢不安の台頭であり、エジプトではマンスール暫定大統領がモルシ前大統領支持派への取り締まりを開始する事を示唆、イエメンでは米軍がアルカイダ武装勢力に攻撃して 3 名が死亡など、このタイミングで一気に中東情勢が緊迫化したわけだ。

さて、チャートが正しいのか？ 材料には勝てないのか？ ちょっと方向感は定めにくい展開であり、こういう場合は“君子危うきに近寄らず”が良いだろう。原油相場は夏休みを取って、わかりやすい場面の到来を待つのが良いか。

なお週末のロンドンブレントは…中略…

また 8/6 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	8 月限(当限)	前日比	1 月限(先限)	前日比
8 月 5 日	¥65,460	-1140	¥63,400	-1080
8 月 6 日	¥65,000	-460	¥62,910	-490
8 月 7 日	¥64,000	-1000	¥61,590	-1320
8 月 8 日	¥63,410	-590	¥60,880	-710
8 月 9 日	¥63,300	-110	¥60,680	-200

東京原油は、先週末の高値 64,580 円 (8/2) から急反落に転じ、週末は安値で 59,720 円まで記録。そこからはまた 6 万円台に戻り、夜間取引では 61,380 円まで戻している。

64,580 円 (8/2) →59,720 円 (8/9) までの下落幅は 4,860 円。夜間取引の高値までは、すでに 1,660 円の反騰である。

その前にも 65,220 円 (7/19) →62,020 円 (7/31) まで 3,200 円幅の下落、62,020 円→64,580 円までの 2,560 円の反騰と激しい動きを演じており、いつもの事とはいえボラは高い。

チャートでは、62,020 円を割り込んだことによって、W トップもしくは三尊天井を形成済みとなっているわけだが、NY 原油も中東情勢の緊迫化を映して急反騰をする情勢では、さてチャー

トが正しいのか？材料が優先させるのか？という状況。

先週号においても「**当分の間、値幅は大きいと想定される**」とコメントしたわけであり、乱高下は想定範囲内であるものの、先行きは若干不透明だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

#### 東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥60,560	3月1日	¥66,480	7月19日	¥57,360	4月16日	¥63,300
2013年9月	¥62,370	4月1日	¥66,180	7月19日	¥57,370	4月18日	¥62,050
2013年10月	¥59,500	5月1日	¥65,840	7月19日	¥57,510	5月2日	¥61,660
2013年11月	¥60,370	6月3日	¥65,530	7月19日	¥58,040	6月14日	¥61,280
2013年12月	¥60,580	7月1日	¥65,220	7月19日	<b>¥60,000</b>	<b>8月9日</b>	¥60,980
2014年1月	¥62,420	8月1日	¥64,580	8月2日	<b>¥59,720</b>	<b>8月9日</b>	¥60,680

結論として当方の相場観は、チャートはWトップを形成済みとなったものの、そこから中東情勢の緊迫化で再び急反騰となっている。よってしばらくは、方向感のない乱高下を演じる可能性が高く、相場のトレンドが明確に出るのはもう少し先のこととなるのかもしれない。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

### 今週のガソリンの値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
8月5日	¥78,810	-810	¥74,680	-890
8月6日	¥78,400	-410	¥74,150	-530
8月7日	¥77,430	-970	¥72,780	-1370
8月8日	¥76,630	-800	¥72,080	-700
8月9日	¥76,180	-450	¥72,060	-20

続いてガソリンです…

先週号においては『72,000円台は買い場であろうとの判断は変わらない。しかし上値は76,940円でつかえている可能性は高く、目先は逆張りのゾーンに入ったのかもしれない』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末の高値75,800円(8/2)から急反落に転じた相場が71,020円まで下落。しかしそこからは反騰に転じ、夜間取引では72,700円まで戻している。

75,800円(8/2)→71,020円(8/9)までの下落幅は4,780円。その前の下落も76,940円(7/19)→72,610円(8/1)まで4,330円幅下げ、3,190円の急騰となっていたわけで、今のガソリン相場のボラは高い。

…中略…

結局のところ、どちらに向いているのか判断の付けづらい相場というのは、逆張りの期間であるという事なのだ。またこういう場合は、上に抜けたと思って飛びつき買いをするとそこで終い、下に抜けたと思って叩き売ると急反騰する、という意地の悪いパターンになるとしか言い様がない。

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥78,930	2月26日	¥79,590	3月12日	¥69,050	4月18日	¥76,180
2013年10月	¥74,630	3月26日	¥78,090	7月19日	¥68,150	4月18日	¥74,160
2013年11月	¥72,990	4月26日	¥77,590	7月19日	¥68,030	5月2日	¥73,020
2013年12月	¥71,760	5月27日	¥77,190	7月19日	¥69,450	6月14日	¥72,480
2014年1月	¥70,660	6月26日	¥76,940	7月19日	¥69,520	6月27日	¥72,240
2014年2月	¥75,050	7月26日	¥75,800	8月2日	<b>¥71,020</b>	<b>8月9日</b>	¥72,060

8/9現在の業者間転売価格は…中略…

8/3現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、もうしばらくボラティリティの高い中での乱高下が続くか。こういう時は逆張りでの対処がベターであり、高い飛びつき買いや、安値突っ込み売りは避けるべきであろう。

○東京灯油日足

…削除済み…

### 今週の灯油の値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
8月5日	¥76,750	-970	¥78,130	-980
8月6日	¥76,240	-510	¥77,580	-550
8月7日	¥75,080	-1160	¥76,210	-1370
8月8日	¥74,640	-440	¥75,370	-840
8月9日	¥74,500	-140	¥75,150	-220

最後に灯油です…

先週号においては『大勢押し目買いの相場ではあるが、8万円の大台突破はまだ厳しそうだし、下値も76,000円以下は長く続きそうもない。目先は逆張りの展開に移行したのかもしれない』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末に記録した高値79,300円(8/2)から反落に転じた相場が、週末には74,130円(8/9)の安値まで記録。その後は反発に転じ、夜間取引では75,830円まで戻している。

チャートでは今回高値の79,300円→74,130円までの5,170円幅の下げの中で、ネックラインの75,830円(8/1)を割り込み、三尊天井を完成させている。だが大元の原油相場が中東情勢の緊迫化の中で反騰であり、…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥78,380	7月19日	¥68,340	4月18日	¥74,500
2013年10月	¥74,090	3月26日	¥78,510	7月19日	¥69,000	4月18日	¥74,630
2013年11月	¥75,350	4月26日	¥79,010	7月19日	¥69,850	5月2日	¥75,100
2013年12月	¥74,610	5月27日	¥79,550	7月19日	¥71,580	6月14日	¥75,550
2014年1月	¥73,900	6月26日	¥79,610	7月19日	¥72,650	6月27日	¥75,500
2014年2月	¥78,000	7月26日	¥79,300	8月2日	¥74,130	8月9日	¥75,150

8/9現在の業者間転売価格は、…中略…

8/3現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、週ごとに急騰～急落を繰り返す展開となっている相場だが、そのような動きはまだ続くだろう。明確なトレンドが出るのは先の話であり、逆張りでの対処がベターであると見る。

## [為替・株式]

### ○ドル/円相場日足

…削除済み…

8/8には95.80円まで円高が進み、そこからはまた円安に戻しているものの、現状では101.63円が戻り天井で、トレンドは円高方向に見える。98円辺りまで戻せば、その後はまた円高で、93円を目指すような格好に見えるのだが、さて？

なお来週の主な予定は、

…中略…

などである。

### ○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

ドル/円相場では103円が円安のピークであり、101円が2番天井で、現在は90円台での調整期間となっているように見えるわけだが、ではそんなにドルが弱いのかと言われれば、確かに対ユーロではドルの大幅安が進行中だ。

…中略…

### ○日経平均相場日足

…削除済み…

中長期的には株式市場の更なる上昇を予測しているのだが、現状のチャートではどう見ても15,900円台で天井打ち、14,900円台で2番天井、12,400円は調整底なのかもしれないが、またもう一度その辺を取りに行くように見える。

昨年秋～この5月までの、誰が何を買っても儲かるような株式市場の美味しい相場は終わり、現在は悩ましい相場展開なのだろうことは、チャートが雄弁に語っている。

---

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス [info@higenaka.com](mailto:info@higenaka.com)